

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 16 No.18 2014年09月30日号

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp

製品・サービス動向-国内

■日立ハイテク、同社独自開発の多地点テレビ会議簡易運用ソフトウェア、ライフサイズ社の多地点接続アプリケーション「Lifesize UVC Multipoint」に対応

株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)は、同社の多地点テレビ会議簡易運用ソフトウェア「EZ 会議(イメージカイギ)」が、ライフサイズ社の多地点接続アプリケーション「Lifesize UVC Multipoint(ライフサイズユーブイシーマルチポイント)」に対応したと発表。(取材:9月5日)

EZ 会議は、日立ハイテクノロジーズが1999年に開発・発売した、オンプレミス向け多地点接続装置を制御するためのソフトウェアシステム。

対応している MCU は、シスコシステムズ社(Cisco MCU4200/4500/5300/MSE8000 シリーズ)、コンピュネティクス社(EVERGREEN シリーズ)。そして今回、それらに加え、ライフサイズ社の Lifesize UVC Multipoint にも対応した。

「複数の異なるメーカーのMCUを利用しているケースでは、操作をそれぞれ覚えるのは大変だ。しかし、EZ 会議はマルチベンダMCU対応であるので、異なったMCU間の違いを吸収し同じ操作感で操作できる。」(日立ハイテクノロジーズ)



ログイン画面(日立ハイテクノロジーズ)

EZ 会議の窓口は、同社社会イノベーション第二営業本部 スマートコミュニケーション部。各種ビデオ会議のほか、BCP対策、教育・研修、相談窓口など向けの各ソリューションも提供している。

同社は、危機管理産業展2014(10月15日-17日、東京ビックサイト、<http://www.kikikanri.biz/>)にてEZ 会議の展示・デモを予定している。

>>>ハイテクビジョン <http://www.hitachi-hitec.com/hitec-vision/>

■ソニー、ユニファイドコミュニケーションへの展開:新ビデオ会議システム製品、「PCS-XGシリーズとスマートモバイル連携」の新バージョン、「Sony PCS-VCS UC パッケージ」を発表



PCS-XG100 (ソニービジネスソリューション)

ソニービジネスソリューション株式会社(東京都港区)は、ビデオ会議システム「PCS-XG100」「PCS-XG77」、「PCS-XG シリーズとスマートモバイル連携」の新バージョン、「Sony PCS-VCS UC パッケージ」をそれぞれ発表した。(取材:9月2日)

PCS-XG100とPCS-XG77は、今年2月にフルHD 旋回型リモートカメラシステムとして発売した「SRG-120H」と「SRG-300H」のうちSRG-120Hカメラを、既に販売されている「PCS-XG100S」「PCS-XG77S」とセットにしたモデルとなっている。PCS-XG100SはフルHD60フレーム対応システムで、一方、PCS-XG77Sは720pで60フレームに対応したシステム(オプションで1080pへアップグレード可)である。

より性能の高いSRG-120Hと組み合わせることで、ビデオ会議における画質の向上が実現している。これまでPCS-XG100SとPCS-XG77Sに対しては「PCSA-CXG100」が専用カメラユニットとして提供されていたが、1080/60pや水平画角71度に対応した新しいカメラユニットによって、PCSA-CXG100よりも、フレーム数が倍になり、画角は55度から71度の広角へと強化された。

性能向上はフレーム数や画角の改善にとどまらず、SRG-120Hに搭載されている「View-DR」機能も重要な性能向上ポイントだ。View-DRは2種類の露光時間の映像をオートコンバインすることで、黒、白つぶれを抑制した視認性の高い映像を作り出す補正機能。照明を落とし、プロジェクタ(2000ルーメン程度)を使用する暗い会議室や、晴天時に窓際でのビデオ会議を行う際に威力を発揮する。加えて、レンズ収差による被写体のゆがみも補正することができる。

「放送などで培ったソニーの技術が活かされている。他のビデオ会議メーカーにはない強みだ。View-DRの威力については他社製ビデオ会議システムと是非比較していただきたい。」(ソニービジネスソリューション)

標準セットとして提供されるSRG-120Hのほかにも、用途に応じてSRG-300Hを選択することもできる。SRG-120Hは中規模までの会議室で使いやすいカメラとなっており、SRG-300Hは教室から講堂まで対応できる30倍のズームレンズを搭載し、天吊り設置にも対応している。

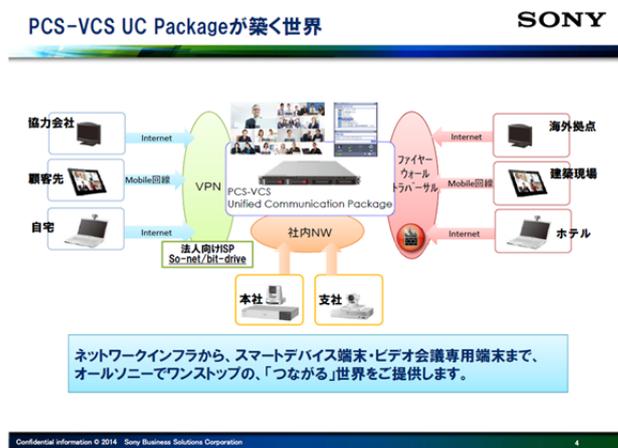
「ソニーは多種多様な用途に最適なカメラユニットを多数揃えている。SRGカメラユニットについては、たとえば、ブライダルや教育あるいはWeb会議専用カメラとして、幅広く採用されている。」(ソニービジネスソリューション)

次に、PCS-XGシリーズとスマートモバイル連携は、社内ネ

ットワーク上にあるPCS-XGシリーズ端末と、公衆インターネット上のスマートフォン/タブレットとのVPNもしくはH.460(ファイアーウォール超え)接続を提供するソフトウェアである。

接続については3通りの方法を提供する。(1)企業に既に導入されているVPN環境を利用する。(2)So-net/bit-driveのリモートアクセスVPNサービスを利用する。(3)VPN環境を利用できない場合についてはH.460による接続を提供する。

この連携ソリューションはすでに販売されており、9月より新しいバージョンを提供開始する。一般のVPNソリューションとの接続性を改良するなどが含まれているという。



PCS-VCS UC パッケージ (ソニービジネスソリューション)

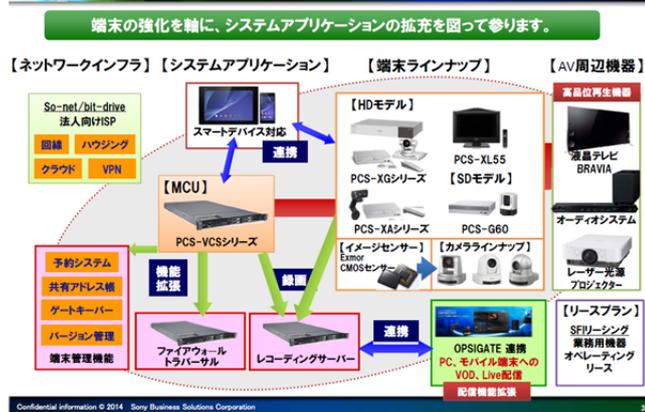
最後に、Sony PCS-VCS UC パッケージは、MCUとファイアーウォール、モバイルの3つをひとつのパッケージソリューションとして提供するもの。MCUポート数は20ポートもしくは40ポートを提供し、2,000端末まで管理できるようになっている。これらの機能をサーバ1台オールインワンで提供することで、導入や管理の手間を軽減し、コストを抑えることが可能となっている。

ソニーとしては、今後、このSony PCS-VCS UC パッケージを核に、PCS-XGシリーズ端末、パソコン、スマートフォン、タブレットからネットワークインフラまで、オールソニーで、ワンストップで“つながる”ユニファイドコミュニケーションを提供していくことを今後の方向性としている。そこには、So-net/bit-driveといったネットワークサービスや、レコーディング/ストリーミング(OPSIGATE連携)、AV周辺機器

(BRAVIA、オーディオシステム、レーザー光源プロジェクターなど)も含まれ、これらを全て包括的に提供するソリューションを今後目指していく。

ソニーの目指す方向性

SONY



ソニーの目指す方向性 (ソニービジネスソリューション)

ソニーは、10月15日から17日に東京ビックサイトで開催される日経BP社主催 ITpro EXPO 2014において、HDビデオ会議システム、デジタルペーパー、レーザー光源プロジェクターを展示する予定となっている。

* 関連記事: 定期レポート 2013年5月15日号
(PCS-XG100S/PCS-XG77S 発売)

■キャノンシステムアンドサポート、中小企業向け Tely Labs 社ビデオ会議製品「telyHD Pro」

キャノンシステムアンドサポート株式会社(東京都品川区)は、Tely Labs 社ビデオ会議製品「telyHD Pro」を10月より提供開始する。(プレスリリース:9月29日)



telyHD Pro w/Audio Pod



多地点会議の様子

tely HD Pro (キャノンシステムアンドサポート)

一般的には、ビデオ会議システムは専用端末のため操作が簡単で画質や音質が良いことが特徴だが高額なインシヤルコストがかかる。一方、Web会議システムはPCやモバイル

ル端末上でソフトウェアを利用するので安価に導入できるが、運用面ではIT知識が必要なため、IT担当者を設けることのできない中小企業では導入が難しいケースもあると同社では指摘する。こうしたケースに 대응するため、telyHD Pro を提供開始し、中堅・中小企業のユーザがすぐに利用できるように設置・設定を行う。

telyHD Pro は、コンパクトなハイビジョン対応ビデオ会議アプライアンス。カメラやマイク、WiFi/Ethernet も含んだオールインワンで提供。Windows や Mac 向けアプリ「telyShare」で簡単にPCのデスクトップ画面を共有することもできる。

本体は従来のビデオ会議システムよりも安価(98,000円税別)〜/台)で、本体にバンドルされているクラウドサービス「telyCloud」を利用すれば6拠点まで同時接続が行えるだけでなく、シスコやポリコムなどのビデオ会議システムとの接続(SIP)や、Skype、Blue Jeans 接続も可能となっている。

カテゴリ	サービス名 (商品構成)	標準価格 (税抜き)
本体	telyHD Pro w/Audio Pod (初年度クラウド利用料・保守込)	116,000円/台
	telyHD Pro Edition (初年度クラウド利用料・保守込)	116,000円/台
年間クラウド利用料・ 年間保守 (2年目以降)	Annual Service & telyCloud Subscription	39,800円/台

価格表 (キャノンシステムアンドサポート)

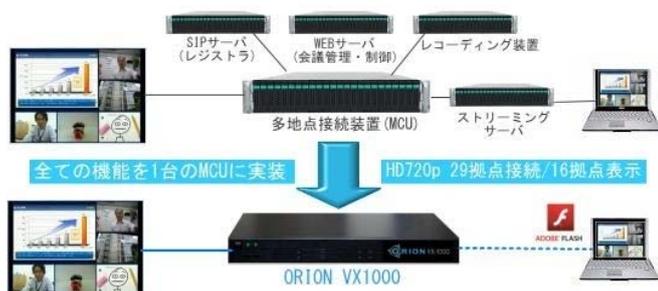
キャノンシステムアンドサポートは、場所は時間にとらわれずリアルタイムに多拠点の映像と音声をつなぐ「ライブコミュニケーション」をコンセプトに、telyHD Pro を営業所での受付対応や案内書でのコンシェルジュ対応など、従来のビデオ会議の枠を超えた利用シーンを提案していくという。また、全国的に200か所の拠点を基盤に2016年までに年間500台の販売を目指す。

なお、同社の販売窓口は、ITソリューション企画部。報道関係者は、総合企画部経営企画課まで。ハードウェアの保守やサポートは、輸入元の株式会社データコントロール(大阪市天王寺区)と連携して行う。

* 関連記事: 定期レポート 2014年7月31日号(データコントロールとTely Labs 販売代理店契約締結)

■スターコミュニケーションズの「Orion-MCU VX1000」、テレビ会議の録音・ストリーミング機能を追加

スターコミュニケーションズ株式会社(東京都中央区)は、同社が販売している多地点接続用テレビ会議サーバ「Orion-MCU VX1000」にテレビ会議録音・ストリーミング機能を9月8日より追加した。(プレスリリース:9月16日、@Press 掲載)



オールインワンが特徴の Orion-MCU VX1000 (スターコミュニケーションズ)

2013年12月に販売を開始した Orion-MCU は、HD (720p) 対応テレビ会議端末を最大 29 拠点接続し、同時に 16 拠点表示することが可能(同時会議数は最大 4 会議)。SIP や H.323 に対応し、NAT トラバース機能を内蔵。さらには画面自動レイアウトや Web 会議管理機能もある。

テレビ会議録音・ストリーミング機能は、特別なストリーミングサーバなどを用意する必要はなく、Orion-MCU にソフトウェアを追加することで、テレビ会議を簡単に録画し、パソコンやスマートフォンで視聴することができるようになっている。

あらかじめテレビ会議の録音機能を設定しておくことで、テレビ会議の開始から終了まで Orion-MCU に内蔵された SSD に自動的に録画(SD 品質:VGA(H.264)、音声:G.722.1)する。テレビ会議のレイアウトの変更や話者切り替えなどをおこなってもそのままテレビ会議を録画する。再生は、Adobe Flash Player や Windows Media Player が対応している。同時録画会議数は最大 4 会議、最大録画時間は約 10 時間(標準)。増設は可能(オプション)となっている。

スターコミュニケーションズによると、多くの他社製品では、

録音・ストリーミング機能は、多地点接続装置(MCU)とは別のサーバとして提供されており、非常に高価だという。それに対して、Orion-MCU は全ての機能をオールインワンで提供するという製品コンセプトのもと MCU にソフトウェアを追加するだけで機能が利用できるようになっている。

Orion-MCU の参考価格は 130 万円(消費税別、以下同)で会議録音・ストリーミングは、50 万円となっている。

関連記事:定期レポート 2013 年 7 月 15 日号(ビデオ会議ブリッジ 国内販売開始)

■NTT アイティ、遠隔 Web 会議サービス「ミーティングプラザ」に災害など出社困難時の事業継続向けサービスメニューを新たに追加

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、遠隔 Web 会議サービス「ミーティングプラザ」に、災害など出社困難時の事業継続向けサービスメニュー「ミーティングプラザ BCP あんしん 128」を加え、10月1日よりサービスを開始する。(プレスリリース:9月24日)

ミーティングプラザ BCP あんしん 128 は、通常の利用時は同時 128 拠点まで接続可能な Web 会議サービスとして利用し、震度 6 強以上の地震が日本国内で発生した場合には、その月と翌月の請求金額が上限 98,000 円となる新サービスメニュー。ユーザの事業継続をサポートするプランとして提供する。

ミーティングプラザ BCP あんしん 128 の特長は以下の通り。

(1) Windows パソコン、Mac、iPad、Android、電話などマルチデバイス対応で最大 128 拠点からの会議参加が可能。複数の会議室を同時に利用できるため、128 接続の大規模な会議から 8 接続の会議を同時に 16 個並行開催など柔軟な会議運営に対応する。

(2) 1 契約で最大 1,280 アカウント登録に対応しているため、事前に社員一人ひとりにアカウントを配布しておくことで災害発生時にもスムーズに Web 会議が開催できる。なお、

CSV ファイルによる一括アカウント登録も可能。

(3) 基本料金は、8時間の利用料を含む月額9,000円(税抜)。各端末の利用時間の合計が8時間を超えると1端末あたり15円/分となっている。

(4) 日本国内で震度6強以上の地震が発生した場合、その月と翌月の利用料が上限98,000円(税抜)となる。

NTT アイティのミーティングプラザは、3,000社以上の導入実績を持つ資料共有型Web会議サービス。2001年の発売。クラウドならびにオンプレミスにて提供している。今回の発売は、事業継続対策に利用できる柔軟な料金プランや、一時的に接続数が多い会議も開催可能なプランへの要望に応えた。

なお、同社は、10月に開催される、金融国際情報技術展(金融ITフェア「FIT2014」)、「IT pro EXPO」、「モノづくりフェア2014」の各展示会にミーティングプラザを展示する予定。

■エイネット、タブレット端末を使った災害時の現場確認ソリューションを発売

エイネット株式会社(東京都千代田区)は、タブレット端末を使った災害時の現場確認ソリューション「FreshVoice 災害対策向けタブレットオプション」を10月1日より主に地方自治体向けに提供を開始する。(プレスリリース:9月30日、ValuePress!)



現場や移動中タブレットを使ったFreshVoiceによる会議 (エイネット)

エイネットは、テレビ会議システム「FreshVoice」に、災害時にタブレット端末を使って、担当者が現場からリアルタイム

に対策会議に参加し、内蔵のカメラを利用して現場の状況を報告したり、映像を共有することが可能なソリューションを開発した。

東日本大震災や今年の記録的な異常気象によって、全国の地方自治体では、災害時に指揮系統の寸断を防ぐための安定した通信インフラの整備が急務となっており、導入に向けた具体的な検討を開始している自治体が多いという。そういった中、FreshVoiceは、豪雪地帯である上越市や十日町市、文化財を多く抱える京都市など、災害対策が必須である地方自治体、国立の医療機関や大学、研究機関など高い信頼性が求められる現場で多く利用されてきた。今回、災害時に拠点間同士を接続する会議だけでなく、タブレット端末を使った機動力のある情報収集が可能になったことで、より迅速で的確な判断と対策を行えるようになる。

地方自治体などの公共機関で今回のソリューションを含むFreshVoiceを災害対策向けに導入する場合は、公共機関向けの特別価格(Government License Program)にて利用できるようになっている。

導入・利用動向-国内

■大阪府立大学、LifeSize社テレビ会議システムを使って他大学と連携した遠隔授業を実施

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は、公立大学法人 大阪府立大学(大阪府堺市)へテレビ会議システムを納入したと発表。(プレスリリース:9月18日)

大阪府立大学は、「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」をキャッチフレーズに、企業で活躍している優秀な人材やOBを招いて、実践的で幅広い知識を学ぶことができる新しい教育プログラム「イノベーション創出型研究者養成」を開講し、広い視野や人間力を備えた「イノベーションを創出」できる人材育成に取り組んでいる。

この取り組みは、文部科学省科学技術振興調整費による「イノベーション創出若手研究人材養成事業」において、高い評価を獲得した。そこで、兵庫県県立大学と大阪市立

大学と連携して、「公立3大学産業牽引型ドクター育成プログラム」を展開し、文部科学省科学技術人材育成費補助金「ポストドクター・キャリア開発事業」を推進していくことになった。

3 大学で展開している教育プログラムは、同一のスキームで展開しており、各大学の学生は他大学のキャンパスまで移動する必要があった。この移動時間を解消し、遠隔地でもリアルタイムに受講できる方法として遠隔授業が検討され、それを実現するシステムとして、LifeSize社のテレビ会議システム「LifeSize Team 220(内蔵4拠点接続機能つき)」1台と「LifeSize Express 220」2台が導入された。



遠隔授業風景--大阪市立大学にいる講師が大阪府立大学の受講生に授業を展開 (VTV ジャパン)

現在ではこの教育プログラムのための遠隔授業のほかに、大阪府立大学内でも遠隔講義が配信されるようになり、通常の授業より受講生が増えるという効果も出ているという。いつも自分が学んでいるキャンパスで受講できるということが、受講のハードルを下げているようだ。

今回の取り組みで大学間の連携を積極的に深めている大阪府立大学。今後は、大人数を収容できる講義室やホールなどでも遠隔授業を展開していきたいと考えている。

VTV ジャパンは、LifeSizeをはじめとするテレビ会議ソリューションで、さまざまな事業の取り組みのサポートをしている。なお、同大学の事例についてはVTV ジャパンのホームページにて公開されている。

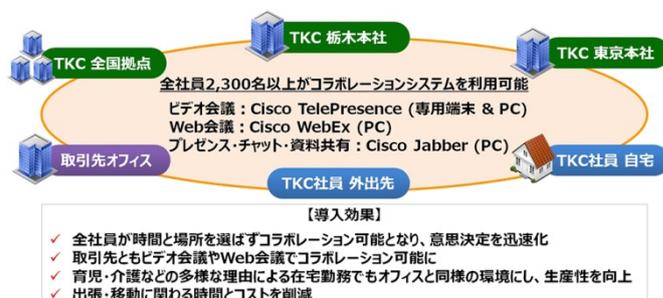
>>大阪府立大学 <http://www.osakafu-u.ac.jp/>

■ ネットワンシステムズ、TKC 全社員 2,300 名以上のワークスタイル変革を実現するコラボレーションシステムを構築

ネットワンシステムズ株式会社(東京都千代田区)は、株式会社 TKC(栃木県宇都宮市)のコラボレーションシステムを構築した。システムは9月から本格稼働している。(プレスリリース:9月22日)

TKCは、1万名を超える国内最大級の税理士・会計士団体「TKC 全国会」を運営しており、会計事務所・地方公共団体・中堅大規模企業に向けて、財務会計に特化したパッケージソフトやクラウドサービスを提供している。

全国に多くの拠点や取引先があることから、移動時間・出張コスト削減のために従来から専用端末によるビデオ会議システムを導入していた。この取組が効果を生む一方で、取引先との対話スピードの向上や、育児や介護による在宅勤務の要望など企業全体としてワークスタイルを変革する必要があった。そこで、ビデオ会議専用端末の台数を拡充するとともに、全社員が社内・社外でコラボレーションを推進できるシステムを新たに導入することにした。



TKC 導入概要図 (ネットワンシステムズ)

今回構築したシステムでは、ネットワンシステムズからの提案を受け、「Cisco TelePresence」「Cisco WebEx」「Cisco Jabber」などを導入。社内・社外から、ビデオ会議・Web 会議・他社員のプレゼンスの確認、チャット、資料共有を可能にしている。これによって、TKC では、全社員が時間と場所を選ばず社員同士や取引先とコラボレーションが可能になり、移動時間や出張コストを削減するとともに、意思決定の迅速化を実現した。

今後、TKC では、今回構築したシステムを活用して、育

児・介護などによる在宅勤務でもオフィスと同様に業務を進められる体制を整え、より一層の生産性の向上と社員満足度の向上を図る予定となっている。

なお、今回の提案にあたっては、ネットワンシステムズ社員がコラボレーションシステムを実際に活用している様子を「Innovative Office 見学エリア」で案内したり、同社で実践している在宅勤務や外出先での業務に関して、システムの観点のみならず、人事制度の側面からも両社の人事部門同士で情報交換し、運用ノウハウやメリット・デメリットを提示したことも大きく評価されたという。

>>株式会社 KTC <http://www.tkc.jp/>

■パナソニック ソリューションテクノロジー、千葉大学大学院に Web 会議システム「リアルタイムコラボレーション」を納入、社会人学生の通学負担を軽減し研究活動を支援

パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社(東京都港区)は、国立大学法人 千葉大学大学院 看護学研究科(千葉市中央区)に、Web 会議システム「リアルタイムコラボレーション」を納入したと発表。(プレスリリース:9月25日、PRTIMES)

リアルタイムコラボレーションは、オフィスや出張先、自宅などのパソコンやタブレットからインターネットに接続するだけで、手軽に会議ができるコラボレーションツール。

看護学の博士後期課程の学生が通う、成人・老人看護学講座老人看護学教育研究分野のゼミにおいて、リアルタイムコラボレーションを活用する。これにより、遠方から通う社会人学生の交通費や研究期間延長による学費負担増を軽減できるとともに、自宅からゼミに参加することで研究活動と仕事・介護を両立することもでき、さらには、複数の学生が同時参加することにより活発な議論も実現した。

>>国立大学法人 千葉大学大学院 看護学研究科

http://www.chiba-u.ac.jp/section/graduate_school/nursing.html

CNA レポート・ジャパン PR

■株式会社日立ハイテクノロジーズ

<http://cnar.jp/Hitachi-HighTech3.htm>

セミナー・展示会情報

<国内>

■最新ユニファイド・コミュニケーション基盤 Microsoft Lync 2013 による新しいワークスタイル改革

日時:10月3日 13:00~14:45(受付:12:45)

会場:マイクロソフト 品川グランドセントラルタワー

主催:日本マイクロソフト株式会社

詳細・申込: <https://msevents.microsoft.com/CUI/EventDetail.aspx>

■Google Chromebox for meetings (WEB 会議システム)、Drive for Work (容量無制限のグループウェア) と iPad 活用事例のご紹介

日時:10月10日(金) 14:00~16:30(受付開始:13:30)

会場:グーグル株式会社 東京オフィス(東京都港区)

共催:グーグル株式会社 / 株式会社電算システム / 株式会社NTTドコモ

詳細・申込:

http://www.dsk-cloud.com/seminar/gotouchi_tokyo20141010

■Google Chromebox for meetings (WEB 会議システム)、Drive for Work (容量無制限のグループウェア) と iPad 活用事例のご紹介

日時:10月24日(金) 14:00~16:30(受付開始:13:30)

会場:グーグル株式会社 東京オフィス(東京都港区)

共催:グーグル株式会社 / 株式会社電算システム / 株式会社NTTドコモ

詳細・申込:

http://www.dsk-cloud.com/seminar/gotouchi_tokyo20141024

■Polycom Day 東京: コミュニケーションの世界はさらに広がります。

日時:10月24日(金) 15:30~16:30(受付:15:15)

会場:ポリコムジャパン オフィス(東京都新宿区)

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込: <http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

(次のページへ続く)

■ワークスタイルの変革セミナー2014

～オフィス環境、業務ルール、人事制度、
ITインフラの第一人者が語る成功の秘訣～

日時:10月24日(金)13:30～17:30(受付:13:00)

会場:シスコシステムズ合同会社セミナールーム(東京都港区)

主催:ディーアイエスソリューション株式会社

共催:シスコシステムズ合同会社/株式会社文祥堂

詳細・申込:

http://cloud.dsol.co.jp/seminar/semi20141024_314.php

国内その他: <http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他: <http://cnar.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作:カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

情報発信について

CNAレポート・ジャパン(橋本啓介)では、国内外における、「製品・サービス」「ビジネス」「ユーザ導入・利用」「決算発表」「人事発表」「市場統計データ」「セミナー・展示会」といった観点から、インターネットに公開されている、各社のプレスリリースやお知らせ、ニュースメディアサイト、ポータルサイト、ブログ、掲示板、youtube、メルマガ、Linkedin、Twitter、Facebook、google+などに掲載されている遠隔会議関連の情報を日々収集しております。

下記配信では、市場トレンドを見ていく上で参考になると思われる情報を配信しています。皆様ご自身の情報収集と合わせてご利用いただければと存じます。

定期レポート(15日・月末発行):各社からのプレスリリース、CNAレポート・ジャパンの取材による記事

Dtc-forum メーリングリスト、フェイスブック&Twitter(それぞれほぼ毎日配信):定期レポートであつかっている各社からのプレスリリースや取材に加え、遠隔会議システムに関する情報全般。

詳細は、<http://cnar.jp> 「情報配信について」をご覧ください。

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。

次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介